

障害理解の出前授業



互いの違いや多様な在り方を認め合い、支え合う共生社会の実現に向けて、障害理解の生きる素地づくりから、実践行動の定着を目指します。

実際に交流活動で
自分の変化を実感する

自分ならどうする？
何ができる？を考える

疑似体験を通して、自分の事として
感じる、受け止める

いろいろな人がいることに気づく・知る

交流及び
共同学習等

出前授業

出前授業は、様々な障害に関する種類や特性などについて、体験を通して学び、障害に関する理解を深め、具体的ななかかわり方や互いの違いを認め合い、思いやりの心を育むことができるようなプログラムになっています。交流活動(居住地校交流含む)とセットでの実施はさらに効果的です。小・中学校、高等学校、一般の方など御相談ください。

令和6年度に実施した障害理解授業を紹介します

「ゲストティーチャー」 (居住地校交流事前学習)

- ① 比内支援学校について(行事や学習活動など)
- ② 在籍する児童生徒のこと
- ③ 交流する児童生徒のこと
(得意、困り感について)
- ④ 仲良くするためのポイントの確認と体験活動



「障害理解授業」 (小学校通常学級での授業)

感情をコントロールできない、友達とトラブルを起こすなど、発達障害をもつ児童についての理解と関わり方について一緒に考えました。

- ① 困っている人がいたらどうするかを、「き(気付く)・こ(声を掛ける)・う(動く)」のキーワードで体験し、考える活動。
- ② 身近な友達の苦手さを知り、今後の関わり方について考える活動。

周りの理解と支援によって、障害の捉え方が変わることを話題とすると、「特別なことではないんだ」「相手の気持ちを想像したら、自分にできることを探せるかもしれない」等の感想もありました。



秋田県立比内支援学校

教頭 : 加藤宏和

地域支援部: 根本陽子

TEL: 0186(55)2131 FAX: 0186(55)2132

E-mail: hinai-s@akita-pref.ed.jp

